

各委員(団体)の取組状況報告

臼井 里佳 委員	兵庫県愛育連合会長
<p>愛育連合会は、乳幼児の子育て支援や高齢者の見守る声かけ運動を行い、誰もができるだけ住み慣れた場所で自立して暮らし続けるために、健康寿命の延伸を目指している。</p> <p>しかし、地域内で子どもや高齢者の姿が減少している現状がある。特に高齢者は入院や施設入居により地域から姿を消すことが多く、認知症の高齢者の増加も予測されている。2022年には443万人だった認知症高齢者が、40年後には584万人に、軽度の認知症を持つ人は613万人に達すると見込まれている。</p> <p>このような状況を踏まえ、昨年11月、ひょうご県友会神戸支部と共に「健康で認知症とともに暮らす社会を目指して笑顔で広げよう」と題した認知症予防の啓発活動を実施した。この機会に、愛育連合会は、県内各地から集まった愛育班員や育成者とともに、認知症に関する討論を行い、「自分や家族が認知症になった場合の対応」や「認知症の人と共に暮らせる地域づくり」をテーマに意見交換を行った。その結果、多くの参加者が認知症について考えるきっかけを得たと感じている。</p> <p>これまで「ほっといてほしい」という声が多かったように感じるが、地域づくりの重要性や地域課題の解決に向けた取組みの必要性が浮き彫りになった。地域のつながりの重要性が再認識され、子育て支援や高齢者の見守りは、今後ますます重要であると感じている。</p> <p>12月に閣議決定された「認知症施策推進基本計画」では、「認知症は誰もがなり得るものであり、みんなで支え合う共生社会の実現に向けて取組む」と明記された。愛育連合会は、地域包括支援センターなどの保健師とも連携しながら、無理なく認知症予防の取組みを進めていきたいと考える。</p>	
小野 裕美 委員	公益社団法人 栄養医学協会
<p>協会としては「食からの健康発信」をポリシーとし子供の食育から、高齢者に向けて、(特に在宅医療、コロナ禍において生じた健康二次被害としてのフレイル対策、等…)、健康寿命を全うするために「支え合うところ」が重要と発信されていることを鑑みて、来期はつながりの場や機会をつくり、地域の大家族化を目指すべく実践的な活動に力を入れようと考えている。</p> <p>対がん対策としては未病対策や在宅医療での食サポート、また在宅医療機関や訪問看護ステーションと協力して、「食とところ」に関しての発信やサポートに繋ぐ方向性で取り組みたい。</p>	
尾山 健司 委員	社会福祉法人兵庫県社会福祉協議会 常務理事
<p>地域社会において社会的孤立や生活困窮等の課題が深刻化する中で、県社会福祉協議会では、住民や関係機関と協働し、地域での多様なつながりや支えあいの再構築、住民主体の社会参加の場づくり等を推進している。</p> <p>こうした豊かなつながりのある地域づくりは、県民の健康づくりにも密接につながるものといえる。</p>	

笹嶋 宗彦 委員	兵庫県立大学社会情報科学部 教授
<p>所属の兵庫県立大学看護学部や各自治体と連携して、県内各地域の健康づくりに関するデータの分析と、各地域の課題解決を目指した研究開発を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・淡路市との連携：生活習慣病の予防や検診に市民の皆様がより多く取り組んで下さるようになることを目標とした、糖尿病予備軍向けのスマートフォンアプリの研究開発 ・播磨町との連携：安心して子育てが出来る町を目指して、乳幼児発達検診に関するベテラン保健師のノウハウを健診データとフォロー台帳から抽出する研究 	
高尾 聡 委員	一般社団法人兵庫労働基準連合会専務理事
<p>(一社)兵庫労働基準連合会は、県内で働く労働者の健康確保に関する活動を会の目的の一つとしており、県内11の地区労働基準協会と連携して様々な活動を行っている。(以下、連合会及び各地区協会をあわせて連合会等という。)</p> <p>情報提供として、それぞれ毎月発行している会報にて労働者の健康確保対策に係る労働基準監督署や労働局からの情報を広報している。週間行事や月間行事として、10月の労働衛生週間や11月の過労死等防止啓発月間など、呼びかけを行い、会員事業場を中心に活動の呼びかけを行っている。</p> <p>連合会等では、それぞれ春又は年末年始に1回以上安全衛生大会を開催し、特別講演や事例発表において健康づくりのテーマを取り上げている。最近では石綿や化学物質などの管理に係る内容や、過重労働、メンタルヘルス対策などをテーマとすることもある。また、衛生の取組みの良好な事業場や個人に対する表彰も行っている。</p> <p>研修会についても、それぞれ衛生部会を置き、年に1～2回の衛生研修会でそれぞれ講演や事例発表などの取組みを行っている。</p> <p>近年は転倒や腰痛による休業災害が増加しており、転倒・腰痛災害防止説明会を実施したり、高齢者の災害が多いことから高齢者の災害防止対策として示されたエイジフレンドリーガイドラインの周知に努めている。熱中症対策についても年度の早い時期に毎年セミナーを開催し、事業所における管理の徹底を呼び掛けている。</p>	
太城 力良 委員	一般社団法人兵庫県病院協会副会長
<p>講演会や研修会の開催、会報誌の発行により、県内における医療の現状や課題等を情報発信することや、病院職員の永年勤続表彰により病院職員の資質向上や仕事へのモチベーションを高めることで、間接的に県民の健康の維持増進に寄与していると考えます。</p> <p>またコロナ禍においては、行政と医療機関の調整役となって、医療体制の確保を図ったことで、いくらかは県民をコロナの脅威から護ることができたと考えており、そうした健康危機管理の一翼を担っている。</p>	
田中 伸明 委員	株式会社神戸新聞社論説委員
<p>神戸新聞社では週3回の朝刊「からだ面」で健康情報を発信している。特に月曜日掲載の「病を知る」では兵庫県関係の医療従事者、闘病体験者が様々な治療・予防法や心得などを分かりやすく発信し、好評を得ている。夕刊でも火曜日掲載の「シニア・ライフ面」で身近な健康情報を伝えている。個人としては、社説やコラムなどの中で感染症や熱中症、救急車の正しい利用方法などへの注意喚起を行っている。</p>	

野末 優子 委員	公募委員
<p>地域におけるオーラルフレイル予防対策事業では「フレイル予防教室」「お口の筋力アップ講座」を担当し、住民に向けてフレイル予防への啓発やオーラルフレイルについての講話や口腔機能の測定を行い、現状を把握して機能回復や改善を促す指導を行っている。その他、各ライフステージにおいて歯科健康教育を行い、歯及び口腔の健康づくりの推進に関わっている。また、歯科衛生士会の役員として、会員の人材育成やスキルアップを目指すための研修会の企画運営に携わり、健康づくりのための普及啓発を行っている。</p>	
登里 倭江 委員	兵庫県いずみ会長
<p>いずみ会では、住民に対して、小さな子どもから高齢者までライフステージごとにテーマを持って食育活動を実践している。最近では、子供たちにも栄養成分表示等で、うす味や塩分についても話している。</p>	
橋本 芳紀 委員	一般社団法人兵庫県歯科医師会長
<ol style="list-style-type: none"> 1. 口腔がん啓発ポスター（県補助事業） 2. オーラルフレイル『兵庫発信教えて！ひょうご』出演・リーフレット『今日から始めよう！オーラルフレイル予防』作成 3. 健康づくり推進員フォローアップ研修 4. 歯と口の健康週間ポスター配布 5. 妊婦歯科健診啓発リーフレット作成 6. 妊婦向け『歯周病自己チェックシート』配布・乳幼児向け『歯の生え方にあわせてワンポイントアドバイス』配布 7. あぶらとり紙配布 8. 郡市区歯科医師会に成人期歯口腔の健康プロジェクト事業助成 9. 契約保険組合歯科健診事業 10. 県下障がい者歯科診療施設案内リーフレット作成（県委託事業） 11. 禁煙週間啓発ポスター配布 12. 兵庫県経営者協会機関誌への寄稿 13. 郡市区会県民啓発事業助成 	
橋本 加代 委員	公益社団法人 兵庫県栄養士会長
<p>主な取り組みは以下の通り。</p> <p>生活習慣病予防等の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・減塩対策、若い女性のやせ、フレイル予防等の対策について、「ひょうごの健康的な食環境づくりプロジェクト」に参画し、産・官・学と連携し進めている。 ・若い世代の朝食摂取率向上のため、「大学生向け朝食摂取率向上プロジェクト」を県内3大学の学生が主体的に取り組めるよう支援している。 ・働き盛り世代を含め高齢者のフレイル予防のため、県内10圏域に栄養ケア・ステーションを設置し、身近な地域で食支援を受けられる体制整備を進めている。 ・栄養ケア・ステーション等で活動する管理栄養士・栄養士の人材育成のため「在宅栄養ケア実務者育成・スキルアップ研修会」等を実施している。 	

健康危機管理への取り組み	
<p>・災害時の食支援を的確かつ迅速に実施するための、「JDA-DAT 兵庫」で活動する管理栄養士・栄養士の人材育成のための研修会を実施するとともに、日本栄養士会・県等で実施している訓練に参加している。</p>	
八田 昌樹 委員	一般社団法人兵庫県医師会会長
<p>1. 糖尿病対策の推進について 2. 「がん・生活習慣病講演会」の開催について 3. フレイル対策について 4. 兵庫県医師会 健康情報誌「Pulse (パルス)」について</p>	
林 時彦 委員	兵庫県市長会 (丹波市長)
<p>健康たんば 21 第 2 次計画のもと、健康寿命日本一を目指し、5 つの重点分野を掲げ取り組んでいる。</p> <p>神戸大学と共同で取り組む認知症予防介入研究事業では、40 歳～74 歳までの方を対象に頭と体を使った運動教室の開催及び地域に根付いているいきいき百歳体操の追加プログラムとして頭と体を使った運動プログラム DVD を提供し、その効果を検証する。</p> <p>これら生活習慣改善の取組が、認知症予防だけでなく、循環器疾患（心疾患、脳血管疾患、腎疾患等）やフレイル予防に繋がる取組として、今後社会実装できる仕組みを検討していく予定。</p>	
深井 光浩 委員	一般社団法人兵庫県精神科病院協会会長
<p>1. こころの健康</p> <p>精神保健福祉法の改正により、令和 6 年から施行された入院者訪問支援事業について、当協会では今年度 4 病院（宝塚三田、東加古川、関西少年サナトリウム、ありまこうげん）が施行実施に協力し、4 病院で延べ 60 回程度、医療保護入院している患者に入院訪問支援事業に基づく訪問支援員との歓談の機会を支援した。その結果、「家に帰りたい」「さみしい」「話をゆっくり聞いてもらいたい」などの数々の不安を抱えている患者が「話を聞いてもらえて安心した」「よく眠れるようになった」等、不安な入院中であってもこころの安定に大きく効果があったようで、12 月末までであった試験期間を 3 月末まで延長実施することとした。</p> <p>2. 精神疾患を患っている患者がおろそかになりがちな口腔ケア</p> <p>職員がお手伝いさせてもらう場合が多いが、それでもうまくいかないお口の中の健康保持の実践を県と協力して協会加盟 2 病院（三田西、大池）で実施した。その結果、特に介助している職員から「植物残渣の残りやすいところがよく分かった」「口をあけてくれない患者様への対応」など口腔ケアのコツ、技術の取得ができたとのこと。精神科の患者にとっても全身管理するうえで、歯の健康は極めて重要な課題であることから、今後も他の病院も含めて患者の健康管理に取り組んでいきたい。</p>	
藤井 宏子 委員	兵庫県連合婦人会常任理事
<p>各市町それぞれ健康に関する講演会（栄養面や加齢による身体的機能の面から）やフレイル予防等の体操を行っている。また 100 歳体操の指導や実施もしている。</p>	

藤山 昌生 委員	兵庫県小学校長会経営委員長
小学校段階での健康づくりについて自校（宝塚市立売布小学校）の取組	
丸山 総一郎 委員	神戸親和女子大学名誉教授
<ul style="list-style-type: none"> ・ ストレス評価とメンタルヘルスケア ・ 精神障害の労災認定 ・ 働き方改革とこころの健康づくり (学識経験者としての総括)	
丸山 美津子 委員	公益社団法人兵庫県看護協会会長
①地域住民対象の健康支援講座、介護予防講座への看護職派遣 ②産業保健師と行政保健師の交流による連携強化 ③まちの保健室委員会→まちの保健室活動（健康維持増進、受診勧奨、重症化予防、子育て支援等の相談）各支部で展開、11月末現在、利用者数5,627名	
三宅 圭一 委員	一般社団法人兵庫県薬剤師会長
<ul style="list-style-type: none"> ・ 「くすりと健康の週間」（講演会、お薬相談、健康チェック） ・ 薬物乱用防止啓発、くすり教育等事業 ・ 自殺ハイリスク者対応力向上研修 ・ 禁煙指導 	
山本 剛大 委員	日本放送協会神戸放送局コンテンツセンター長
NHK神戸放送局では、健康に関するニュース・情報を、テレビ・ラジオ・インターネットを通じて発信している。関心が高い感染症については、新型コロナやインフルエンザ、手足口病、はしか、マイコプラズマ、マダニなどの感染状況や対策を伝えた。また、サプリメントを摂取した人が腎臓の病気などを発症したいわゆる「紅麹問題」では、患者を診察した神戸大学の医師の見解を紹介したほか、教員などのメンタル不調や、子どもの視力低下、阪神・淡路大震災に伴うアスベスト被害、有機フッ素化合物「PFAS」の問題、それに「健康寿命」のあとの医療・介護が必要な期間が兵庫県の男性は全国で最も長かったことなどの課題を取り上げた。このほか、加古川市での同性の医師による内科健診や、口と歯の健康週間、災害医療をめぐる動きなども伝え、関心を高めてもらえるよう取り組んでいる。	